

フルタ製菓株式会社との協定により売り上げの一部を市に寄付いただきました！



寄付金贈呈式は、ゴールデンウィーク初日の4月29日(土)に、マキノピックランドで開催されました。



市内でも「セコイヤカー」を見かけることがあるかもしれません！

昨年10月に市と協定を締結したフルタ製菓株式会社から、市内限定で販売している「マキノ高原限定パッケージセコイヤチョコレート」の1月末までの売り上げに応じて、207,180円のご寄付をいただきました。市内3か所で販売を開始した限定チョコレートは、市の観光スポット「メタセコイア並木」と「セコイヤチョコレート」という名前のつながりから話題が広がり、現在では市内10数か所で販売されています。

大阪の企業から、琵琶湖源流域にある高島市をこのような形で応援していただけることは大変ありがたいことです。寄付金は、全国的な観光スポットにもなった、メタセコイア並木を守る活動などに活用させていただきます。(総合戦略課)

県武道会から銃剣道選手 武道功労賞を受賞！

2月5日(日)に滋賀県立武道館で第54回滋賀県武道祭が行われ、次の方々を受賞されました。(市民スポーツ課)



名前	結果
内堀 一弥 (新旭町在住)	武道功労賞
北出 滉弥 (今津中学校)	武道優秀賞
松本 亜衣奈 (今津中学校)	
松本 奈衣瑠 (今津北小学校)	
井上 大志 (今津東小学校)	
中山 結愛 (今津東小学校)	

※敬称略

安曇川中学出身の高取さん テニス全国大会で活躍！

3月20日(月)から26日(日)まで福岡県で、第39回全国選抜高校テニス大会が行われ、男子団体の部で安曇川中学出身の高取 悠太さん(当時光泉高校2年)が全国の舞台で活躍されました。(市民スポーツ課)



安曇川中学出身の高取さん

ふるさと納税を活用 再生、カキツバタ群生地！



以前のカキツバタ群生地

カキツバタは水湿地に群生し、5月から6月にかけて紫色の花をつけます。小入谷のカキツバタ群生地は、シカなどの獣害により、平成17年頃に全く見られなくなりました。このカキツバタ群生地を再生し観光の名所として復活させるため、平成28年度に湿地帯の周囲に獣害防止柵を設置したほか、駐車場や案内看板を整備しました。平成29年度からは周辺住民の協力によりカキツバタを株分けし、カキツバタ群生地の再生を目指しています。この事業は、ふるさと納税の寄付金を活用して実施しています。(朽木支所)

メタセコイア並木新緑まつり マキノピックランドが大盛況！

4月29日(土)から5月7日(日)まで、マキノピックランドで2回目になる「メタセコイア並木新緑まつり」が開催されました。期間中は、若藪で焼く旬の手作りピザの販売や、クラフトマーケット、並木新緑コンサートなど、さまざまなイベントが催されました。また、初日にはフルタ製菓株式会社の特設ブースも出店され、メタセコイアの最も美しいと言われていた新緑を楽しもうと多くの観光客でにぎわいました。(企画広報課)



琵琶湖周航の歌100周年

毎日、防災行政無線から流れるメロディー「琵琶湖周航の歌」、皆さんもよく耳にされていることと思います。この歌は大正6年6月に現在の京都大学ポート部に所属されていた小口太郎さんが今津に宿泊された際、当時流行していた「ひつじぐさ」のメロディにあわせて青春のロマンや美しい琵琶湖の風景を歌ったことが始まりとされています。意外なところから生まれたこの歌ですが、県内6か所に歌碑が建てられていたり、60組以上の方にカバーされていたりと、時代を超えて歌い継がれており、ある調査では県民の97%が知っている、また76%が歌えるという結果が出ております。

これほどまで県民に親しまれているのは、県内各地の地名が出てくる歌詞と、どこか懐かしいメロディーに、故郷が恋しく感じられるからではないでしょうか。現代は、IT技術などの進歩により社会がめまぐるしく変化し、日々仕事や学業に追われている方が多いと思いますが、この機会に少し立ち止まって、故郷に思いを馳せ、琵琶湖の美しさを見つめ直していただければと思います。市では、6月下旬に関係機関と連携して、琵琶湖周航の歌100周年記念式典や各種事業を計画しております。市民の皆様と100年を振り返り、新たな歴史を築いていきたいと思っております。



福井正明

市長雑記